

2022 年度 卒業生アンケート結果（報告）

学部卒業生を対象に、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づく知識・能力を、本学での経験を通じてどの程度獲得できたか把握し、本学の教育内容のさらなる質的向上・保証・改善に役立てることを目的とした、教育や研究、学生生活及びキャリア（就職・進学）に関するアンケートを実施した。

実施結果及び今後の課題について別紙のとおり報告する。

<アンケート実施概要>

対象者：卒業後1年以上経過した本学学部卒業生（研究科に在籍する学生、教職員を含む）

実施方法：オンライン（Qualtrics）による実施

設問内容：別紙のとおり

回答期間：2022年9月1日～9月30日

回答数：1,463件

<アンケート結果>

別紙のとおり

<アンケート結果の分析>

- ・本学の教育やカリキュラムに対しての肯定的回答（満足している、やや満足している）の割合は80%を超え、高い満足度であることがわかる。（Q4）
- ・大学在学中に身に付いたと感じる能力の割合が最も高いのは、「専門分野に応じた基礎学力と、その上に立つ専門知識」である（Q9）。また、身に付けるべきだと考える能力の割合が最も高いのは、「高い専門性ととも、その構築で培った論理的思考力とエビデンスにもとづく科学的思考力」である（Q6）。このことから、「基礎的な知識」「専門的な知識」は本学卒業生の強みとなっていること、「論理的思考力」「科学的思考力」の能力が重要であると考えられていることがわかる。
- ・大学在学中に身に付いたと感じる能力の回答割合が低いのは、「多様な文化・言語を理解し協働するための国際性を身に付けるとともに、グローバル化した社会の中で、多様な価値観を持つ人材とコミュニケーションを取れる能力」で5.8%（Q7）、「修得した専門知識や教養をもとに、他者とコミュニケーションをとり、国際的な視野を持って活躍できる能力」で5.5%（Q9）である。
- ・大学生活でもっと学んでおけばよかったと感じる知識や能力について「専門的な知識・技術」を回答した割合は44.8%（Q11）と2番目に高く、また、大学卒業後の仕事内容（研究内容）が卒業した学部学科の専門分野の内容と関連すると回答した割合が70.7%（Q2）であることから、専門教育の重要性も示された。

<今後の課題について>

<アンケート結果の分析>より、以下のとおり今後の課題が考えられる。

- ・多様な文化・言語・価値観への理解及びその人材とコミュニケーションをとる能力の育成
- ・専門教育の充実
- ・本アンケートの質問内容の改善